

6-2-3 園長記念講演

「炉端の会のこれからに向けて」 —20周年記念式典講演要旨—

川崎市立日本民家園長 木下 あけみ

炉端の会創立 20 周年、本当におめでとうございます。

民家園を活躍の場とし、文化財建造物の維持保存と来園者への様々なサービスにご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。本来なら三輪先生*1にお話を伺うところですが、ご体調の関係で叶いませんでしたので、微力ながら今後に向けて少しお話をさせていただこうと思います。

1. 「炉端の会」設立のきっかけ、目的

床上公開のきっかけの一つは「雪囲い」展示でした。展示のための現地調査を H4 年 12 月中旬に五箇山・白川地域で行い、同月下旬には民技会の協力を得て山田家の雪囲い展示を実施しました。翌年 2-3 月の毎日曜に、雪囲いの中で試験的に床上公開を行いました。「好評だから今後も実施する」と当時の民家園だよりに書いてあり、H5 年度には山形県朝日村に調査に行き、菅原家での雪囲いも始まりました。* 2

また「民家園 35 年のあゆみ」の中で三輪先生は、「建物は人が利用し、住むことで普段は特別な措置をしなくても維持されるが、博物館へ移築された建造物は、その段階で展示資料となり、空き家となる。それがいかに重要文化財であると自慢しても、いったん空き家となるとたちまち劣化が進み、特に湿気が強いと廃屋同然となりかねない。」とし、続けて「人の住んでいる状態に可能な範囲で近づける。」「清掃と燻煙、来園者への解説ガイドや囲炉裏を囲んでの団欒、これによって人の気配が蘇ってきた。」と書かれています。* 3

2. 経緯と現状

入門講座実施を経て H6 年 8 月末に炉端の会は正式発足し、その後第 2 グループ・第 3 グループと募集を重ねました。各グループ毎に学習会を含む月例会を行い、大変丁寧に育成・運営されていました。当時の豪華な学芸スタッフによる学習会では、民家だけでなく神社仏閣、考古学、中国やヨーロッパの遺跡の話まで多種多彩だった記録が残っています。

会の年間活動人数は H7 年には 1,000 人の大台に乗り、H13 年度の 2,900 人まで好調でしたが、平成 14・15 年度と少なくなりました。5 年間募集をしていなかったため、会員数の減、特に土日会員の減が原因でした。土日会員の確保は現在に続く課題です。

私が H16 年度に民家園に赴任した時、最初に会の方に言われたのは、「新人募集をして欲しい!」ということでした。しかし職員が 1 人減り、私の技量では、グループごとに月例会・学習会を開催するのは困難でした。また①床上公開棟を増やしたい、②園の活動に市民の方のパワーをもっと発揮していただけないだろうか、とも思ったのです。各グループ長に相談し他の野外博物館のボランティア活動も参考にし、毎年必ず会員募集をし、グループを解消し曜日別に再編することとしました。実は私は以前の市民館勤務などで、会員減で衰退する市民団体をいくつも見聞し、どんなに素晴らしい会でも新人をオープンに受け入れない会は

やがて滅びるという確信を持っていました。新しい会員が定期的に入ることで、人間関係に風が入ります。新しい方は総じて熱心ですので、先輩として頼りにされ、それに応えようと意欲的となり会の活動が活性化されるのではないかと考えました。入門講座は従来の8回から4回とし、不足分の新人育成は先輩方に頼る事としました。

再編する過程で、10年の節目を迎えていた第1グループの半数が勇退されました。「グループ」を「期」という呼び方とし曜日別に再編、H16年9月に土日だけの緊急募集（チラシを近隣施設に撒いたのみ）、12月に平日・土日の募集をしたのが、今日まで続く募集と入門講座のスタイルです。当時の各グループ長、1本化した時の会長など役員の方にも本当にお世話になりました。現在炉端の会がこのように大きくなり活動を続けて来られたのは、1期・2期・3期の方たちが下支えしてくださったお蔭だと思っています。改めて御礼申し上げます。

H17年度には、「協力者会議」ができ、民技会、炉端の会、職員が同じ土俵で話し合い、予算がなくとも、自分達でできることから手を付け始め、少し停滞していた教育普及事業や、広報がテコ入れされました。この時に出た様々な意見は、まだ実現できていないものもあり、例えば、向ヶ丘遊園駅を改名し生田緑地駅にする、雨の日サービス、敬老の日の親子割、等々面白いと思うアイデアが多数あります。

協力者会議から、「お月見をしよう」「お正月を遊ぶ」などの行事や、フリーガイド、英語ガイド、環境整備などの炉端の会のチーム活動が正式に動きだしました。この会議は現在各班長、民技会各グループ長に出席いただいて、年3回、民家園の改善点について意見交換していますので、ぜひ今後もこの会議を活用してほしいと思います。

お陰様にて現在、炉端の会は250余人の会員となり、大変活発な活動を展開されています。詳細は皆様ご承知のとおりですので今日は割愛いたしますが、他都市からの視察でもボランティア活動について聞きたいというオーダーが良く入ります。

3. 今後の活動への期待

10年前に、1日に1-2棟でなく全棟に火を入れたいと夢を語ったら、会の方にも職員にも笑われた私ですが、今日ついに！実現しました。ありがとうございます。夢を語る前に、まず初心を思い出そうとあえて申し上げます。先輩方に大変失礼な言い方をして申し訳ないのですが、どうかご容赦ください。

初心を忘れずに

①最初に民家園にいらした時のことを思い出してください。ゆっくり静かに見たいと思った方、人の声がするのでびっくりして恐る恐る民家の中を覗いた方、逆に誰もいなくて道に迷った方、色々だと思えます。つまり、色々なお客様がいらして、お客様の要望に合わせる事がお客様の満足につながる、ということです。会員だけで話し込んでお客様の来訪に気付かないのは、避けたいと思えます。（残念ながら毎年この手のお客様のご意見が園に届きません）。

②民家園に来る前にガイドブックなどをぱらぱらと見ていただいていますか？復習というか予習というか床上公開棟は16・7ありますので、単純に計算すると一巡するのに8ヶ

月かかります。ぜひ事前チェックをお願いします。

③新しい情報をゲットしていますか？ 250人の方と情報を共有するのは、なかなか難しいことです。職員は、例会で、議事録で、毎日のミーティングで、繰り返しお伝えしているつもりですが、なかなか届かないと悩んでいます。炉端の会、民家園はどんどん変わっていきます。例会に出られなかったら議事録をゲットしてください。炉端の会のHPを覗くとか、組長さん・班長さんに欲しいと言ってください。休んでいる会員へさりげなく情報伝達もありがたいことです。

民家園は何のための施設？

民家園はテーマパークではありません、何のための施設か、野外博物館として「使命」を掲げていますので、受付にも掲示してありますので時々見ていただけたらありがたいです。

では、今後に向けて・・・ですが、

交流を！ この会は、家族、職場、地縁などのしがらみがない、民家園が好きという一点で集まっている方ばかりですから、ぜひ色々な方と知り合って仲間として緩やかな交流を図っていただければと思います。

各曜日班の運営は班に任されています。第5週を全員参加日にするとか、さらにその後懇親会をする、あるいは見学会を定期的実施、活動日のミーティングで並んだ順に1234と棟を割り振る 等、班により様々です。面白い試みは、真似してみませんか。

曜日班を越えて、同期の交流、懇親会とか、夏休みの一日を焚く、チーム活動で他の曜日の方と交流 などもできます。

発信を！

ガイド活動（各棟でちょっと説明する、定時ガイド、フリーガイド、団体ガイド、英語ガイド）

ガイドという引く方もいらっしゃるかと思いますが、各棟でちょっと説明する、お客様に声をかけるなど、色々できることがあります。先日「英語でこんにちは」というお役立ちの印刷物も出ましたね。

ガイドの基本は事実を知る、ということです。民家を良く観察する、入門講座でお渡しした資料などを読む、お互いに集めた情報を発表しあう、いろいろな方法で知識を深めていただきたいと思います。例えば例会の後で情報交換会を開くというのはいかがですか？ また、お客様の気持ちに寄り添うというのも基本です。

チーム活動

草バッタチームですが、園外からも来てくれないか打診され好評です。こんなこと民家園でやってみたい・・・ということがありましたら、例会や班別集会で声をあげてみませんか？

折紙チームとか、縫い物チームとか、図書チームとかどうですか？今年梅干しをやってくださったのですが、数人有志が集まった段階でお試しも「あり」です。民家園の「使命」に当てはまるなら実現に向けて班長会や園で検討します。チーム活動があまり知られていない、また入るのにハードルが高い方もおいでのようですが、ぜひ気軽に参加して楽しんで

でいただきたいと思います。

広報チームができ、ビジターセンターへの毎月の掲示、HPの充実ぶり、素晴らしいと思います。お陰様で、炉端の会と民家園の認知度が伸びていてありがたいです。

学びを！

発信しようとするといつも、自分の知識のいい加減さに突き当たります。民家園の刊行物（ガイドブック、目録（民俗報告）、建築修理工事報告書など）、民家の概説本、写真集、専門家の講座も参考になります。他の民家園に行ったり、各地に残る重文民家を見たり、比較すると、色々なことが見えてきます。実は江戸時代の民家については研究する人が少なく、判っていない事がたくさんあります。本により書いてあることが違ったりするので、注意が必要です。1つの情報源だけでなく複数あつたほうが良いですし、分っていないのです、ということも大事だと思います。

発信すると、良いことがあります。数分のちょっとした立ち話でも、30分のガイドでも、たいていの場合、相手はととても喜んでくださいます。炉端の会の方に、釈迦に説法と思いますが、これは快感ですね。私は話すのがとても苦手ですが、相手に感謝されることが続くと本当に嬉しくなります。ガイドをして一番大きい喜びを得るのは、ガイドした本人ではないでしょうか。

少し他都市の博物館の市民活動の紹介をします。

北海道開拓の村（ボランティアの会 200 人、広報事業部、研修事業部、企画事業部などがあり、自由闊達な雰囲気があります。昔のおまわりさんや村人のコスチュームをつけている、演劇で漁村の暮らしを表現、気軽に個人発表をしあう（●●について調べたので●日に●家でお話しします、と予告して話をする）など多彩な活動を展開。）

江戸東京たてももの園（ヒジロ会 200 人、自主活動が活発。入口にボランティアが常駐し、床上公開とともに桜湯の提供、絵はがき作成などを実施。子どもボランティア（ひじろっ子）* 4、地域商店街と大規模な「夕涼み」等の祭りも。）

新しい市民活躍のスタイルとして東京都美術館の試みを紹介します。

「とびらプロジェクト」（美術館を拠点にアートを介したコミュニケーションを促進、オープンで実践的なコミュニティーの形成を目指すプロジェクト。美術館は文化創出の場。「アート・コミュニケータ」（通称とびラー）を募集。「この指とまれ式」「そこにいる人が全て式」でプロジェクトが動き、「あなたも真珠の耳飾りの少女プロジェクト」「チラシ de うちわ」などを実施。* 5）

博物館は市民の方の学びの場、活躍の場です。継続して、個性や能力を発揮しさらに開花させてください。どうぞ、民家園を大いに活用してください。

今後、ちょっとおめでたいことがあります

まもなく川崎市文化賞を受賞される予定です。大変名誉なことだと思います。また、入園

者数 600 万人達成（12 月か 1 月予定）、H29 年 4 月 1 日には開園 50 周年となります。特に 50 周年はこれから実行委員会を作り、炉端の会や民技会や地域の方と一緒に盛り上げていきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

民家園の今後めざす方向性 長期的には「民家園の使命」の実現です。

民家園は発展途上の博物館です。民家については全国的にもトップクラスの評価を受けていますが、民俗についてはまだ弱いです。民家の中で行われていた暮らしについて、もう少しわかる展示や教育普及活動をしたいと考えています。例えば、今年度に入って新たに、親子が参加できる企画、子どもに判り易いワークショップや企画展示などに取り組んでいます。次世代を対象とした事業です。今やっている企画展示「大工さんの道具箱」も判り易いものを目指しています。さらに、学芸班の職員は全員が何か解説とかワークショップなど来園者に向けての活動を始めています。やっているうちに、よりオリジナリティーと質の高い、あるいは判り易いものができるはず、と思っています。今後は何か炉端の会と一緒に、あるいは炉端の会の発議で、できる事があるのではと思っています。

最後に

この炉端の会は、民家園に取って本当に大きな財産、宝物だと思います。会員お 1 人お 1 人の力、会員同士の信頼関係、職員と会員との信頼関係など、最後は人と人の関係にたどり着きます。楽しみながら、緩やかで良いので、善意にみちた信頼関係を築けていけたら良いなあと、と思っています。

元会長さんがおっしゃっていましたが、この会の良いところは、細く長く続けられるところ です。ご家庭の事情、健康状態など続けにくくなる時もあるかと思いますが、休会制度も上手に使っていただき、無理せず、長〜く通っていただければと思います。本物の民家がある、本物の民具がある、四季折々を民家とともに堪能できる、良き仲間がいる、この場所で、今後も素晴らしいご活躍ができますよう、心から祈念いたします。ご清聴ありがとうございました。

H26/9/28

- * 1 H6 炉端の会設立時担当者、後に園長
- * 2 日本民家園叢書 4「日本民家園の雪囲い」（H15. 3） H4 年度「合掌造り民家の雪囲い調査と展示（五箇山・白川地域）」、H5 年度「東北の民家の雪囲い調査と展示（山形県朝日村地域）」
- * 3 「民家園 35 年のあゆみ」（H15. 3） 「日本民家園きのう、きょう」
- * 4 夏休みの 1 週間限定、一日以上参加、小 4-6
- * 5 ここではボランティアではなくプレーヤーと呼んでいる。専門家をサポートする従来のボランティアではなく、美術館と人々を繋げるコミュニケーションをどうやれば深めることができるか、個々人がプレーヤーとなって考え実践する。